

# フジ運輸株式会社 の巻 (市原市)



日本国内で新型コロナウイルス感染症が確認されてから3年が経過。先頃、国は感染症法における感染症の分類を季節性インフルエンザと同等にすると発表しました。行動制限や海外からの水際対策が緩和され、コロナ禍以前の日常生活が少しずつ戻りつつあり、読者の皆さまも明るい兆しが見え始めているのではないのでしょうか。

☆☆☆

暦の上での立春を翌々日に迎えた取材日の2月2日は厳しい寒さとなり春の訪れを待ち遠しく感じました。第80回目の事業所訪問先は、市原市に本社を構えるフジ運輸(佐藤秋雄社長)です。同社のある市原市千種海岸は、昭和32年から臨海部の埋め立て造

成地として始まり、現在は日本最大規模の石油コンビナート群が立ち並び、「工場夜景」を楽しめるスポットとしても有名です。「こんにちは、トラック健康です!」と訪ねると、日頃、健康管理委員としてご尽力いただく磯野総務部長の迎えを受け応接室に案内されました。間もなく執務中の佐藤社長が入室され、貴重な時間を頂戴し取材を始めることとなりました。

「こんにちは、トラック健康です!」と訪ねると、日頃、健康管理委員としてご尽力いただく磯野総務部長の迎えを受け応接室に案内されました。間もなく執務中の佐藤社長が入室され、貴重な時間を頂戴し取材を始めることとなりました。

人命を守り、  
社会的使命を果たす!

私たちは最初に同社の社史を伺いました。

フジ運輸は、親会社である丸藤シートパイル株式会社(東京都中

が私たちの使命です」と佐藤社長は断言されました。

設立当初から一切妥協を許さない使命感が、長年にわたり継承され、強固な基盤を構築し、健全経営につながっているものとお見受けしました。

また、同社では、朝礼時に安全スローガンを全員で唱和し、日々の安全意識を高めているとのこと。加えて、毎年、労働災害・交通安全防止スローガンを全社員から公募し、無事故ドライバーの表彰を行うなど、モチベーション向上に努められているそうです。佐藤社長は、コロナ禍で以前のよう

な従業員とのコミュニケーションが少なくなつたことから、従業員が気軽に日頃気付いた点や問題点を分け隔てなく話し合える職場環境を目指しているとのことです。

公募で決まった、令和5年の労働災害・交通安全防止スローガンは「今一度この目 この手で 安全確認」「ゆとりとマナーと譲り合い 皆で高める 安全意識」です。このメッセ

中央区・加藤七郎社長)のグループ企業として昭和39年に設立しました。創業当時から河川や土木、建築現場などの地下の基礎工事に使われる重仮設鋼材(シートパイル等)の運搬を専門に行っています。配送先は、主に東日本地域のことですが、業務受注後は、事前に現場を視察し、土壌の深さや環境に適した鋼材を各営業所から運搬工事が終了すると使用済みの鋼材を回収し、土中に埋める際に曲がってしまった先端を切りそろえたり、洗浄などのメンテナンスを施した上で再利用するそうです。本社事務所は、丸藤シートパイル千葉工場と隣接し、鋼材置き場も兼ねていることから広大な敷地に立地し、私たちはその広さに圧倒されました。

同社が扱う重仮設鋼材は工事現場の基礎です。公共事業や再開発工事でも手掛けられるそうですが、近年では、東日本大震災後の復興事業、東京オリンピック選手村の建設などの基礎工事が挙げられます。一つのミスも許されない人命を守る土台であり、佐藤社長はじめ、従業員全員が社会のインフラ造りに貢献する、プロフェッショナルと

ージは私たちも深く胸に刻んだところです。

公私の切り替えは  
ウォーキングにあり!

続いて、佐藤社長の健康管理・維持についてお伺いしました。

週1日ですが、と謙遜されながらも、自宅近くの海辺を1時間ほどウォーキングしているとのこと。また、バスでの通勤時には、手前のバス停で降りて歩くことを意識されているそうで、日頃から運動不足解消を心掛けていらっしゃる様子。「海に沈む夕日、癒やしの波の音、四季の移ろいに癒やされ「プチ幸福感」に浸っています」と佐藤社長は笑顔で語り、ストレス解消やメタボ撃退効果も「至福のウォーキング」の副産物になっているようです。

## 創業60周年を迎えて

土木工事の基礎材料を運搬する同社は、社会の礎を運搬していると言っても過言ではなく、同社の基盤も強固となり来年10月創業60



▲積み上げられた重仮設鋼材

しての自覚を持って日々の業務を遂行されています。

現場は生き物、  
日々環境変化に対応

話題は、安全・事故防止対策に移行しました。

搬入先は河川敷から都心のビル街等、さまざまな現場であり、また工事現場の環境、天候などによって工事の進捗状況が左右されます。そのため「現場ごとの工程ルール」が定められているとのこと。

周年を迎えられるそうです(おめでとうございます!)

今後の展望を伺うと、既存の事業を継承し、「安全運転、事故防止、健康維持管理」をモットーに、個を磨き、個の実力を発揮することで健全経営を目指していくとのこと。その背景には、佐藤社長の好きな言葉である、日蓮大聖人が説かれた「桜梅桃李」があるそうです。春の季節に咲く花が四つ並んだ四字熟語の意味は、サクラ・ウメ・モモ・スモモのそれぞれが美しい花を咲かせるように、他人と比べることなく自分自身を磨くことが大切ということ。この風流な言葉を伺った際、会社が目指す方向性と「桜梅桃李」の言葉が見事に合致していると思ひ、私たちは佐藤社長の下、同社が他社にない力を十分に発揮して今後ますます発展(花開く)することと確信しました。

☆☆☆

和やかな雰囲気の中での取材はあっという間に予定の時間を迎えました。

佐藤社長をはじめ、従業員の皆さま、ご協力ありがとうございました。



▲佐藤社長(左)と磯野総務部長